

令和３年度 三次市立三和中学校 学校評価自己評価表

◆ 経営理念 ◆

- 【教 育 目 標】 「志高く、未来を拓く」
- 【ミッション】 生徒たちに、夢や志に挑戦する勇気と自信を与え、「グローバル社会で活躍する人材を育成する」学校
- 【ビ ジ ョ ン】
- (１) 主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。
- (２) 規範意識や礼儀など豊かな心を育む。
- (３) グローバルマインドを養い、夢や志の実現に向けて粘り強く挑戦する逞しい気力と体力を育成する。
- (４) 小中一貫教育の充実を図り、 ９年間を見通した教育活動を展開する。
- (５) 保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

◆ 経営目標・評価項目・評価・達成状況 ◆

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	中間		最終		結果概要と分析(中間)	改善方策(中間)	担当
						通過率	評価	通過率	評価			
確かな学力の育成	主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。	基礎・基本の学力の定着と活用型学力の定着を図る。	・小テストと宿題をリンクさせた指導（定期的な個別指導の実施） ・「理解確認」の充実と工夫 ・実生活に結びつく問題の提示及び教材開発（理解深化課題の工夫）	各種学力調査において、各教科それぞれ全国平均を上回る。（３ポイント）	3.0	86.7	3			本年度全国学力・学習状況調査では、平均通過率が国語 69％（全国 64.6）、数学 58％（全国 57.2）という結果になった。中でも、国語では「文章の構成の工夫について自分の意見を書く」について 92.9％の正答率と高く、数学では「データの傾向から判断する理由について数学的な表現を用いて説明できる」について 21.4％の正答率ではあるが、県平均 10.5％、全国平均 11.1％と比べると高い値となった。 夏休みに補完学習・質問教室として、生徒が自習できる環境を設定し、夏休みの課題に取り組みながら質問をさせることで基礎的な学力の定着を図る取り組みも行った。	学力における個人差が大きいこともあり、個別の学習指導の場の設定が重要だと考える。一斉授業では拾いきれない個人の困難度を個別の指導で解消していく機会をこれからも設定し、基本的な学力補充をしていく。また、生徒が課題に対してより意欲を持てるよう、理解深化課題において実生活での場面設定等を意識した授業づくりを行っていく。	教務
		家庭学習の習慣化を図る。	・予習を活用した導入と既習事項の確認のための小テストの実施 ・教職員全員による自学習チェック ・定期的な学習時間調査とグラフ化による自己管理	「家庭学習を２時間以上している」と回答した生徒の割合（％）	80	57.1	2			１学期は、５月と試験週間（６～７月）の家庭学習時間・メディア時間調査を行った。５月の調査では、家庭学習時間の全体平均約１時間、メディア時間の全体平均約２時間であった。一方、試験週間の家庭学習時間の全体平均約２時間、メディア時間の全体平均１時間程度であった。個人別にみると、試験期間中のメディア時間が４時間以上の生徒もあり、家庭での時間の過ごし方に課題がある。５月と７月に生徒アンケートを行ったところ、「予習の効果がある」と答えた生徒が 11.4％減少している。予習をしている生徒、予習の効果を実感している生徒の肯定的評価が下がっていた。	家庭学習の習慣をつけるために、自学習ノートの取組の改善を図っている。自学習ノートに復習だけでなく予習も取り組むようにしている。また、曜日ごとに自学習をチェックする学年会を变えるなど、全職員で全生徒の自学習の様子を把握できるようにしている。さらに、工夫されているものを掲示して紹介する取組を行う。家庭学習時間・メディア時間調査においては、２学期も引き続き試験期間中と期間外に調査を行う。以前の調査結果について生徒自身が振り返ることができるようデータの積み上げも行う。	教務
		生徒が主体的に学ぶ授業づくりを推進する。	・ＩＣＴの効果的な活用 ・「教えて考えさせる授業」を基盤にした授業改善（授業参観週間を学期に１回設定） ・各教科１単元以上の単元開発及び授業実践（課題発見・解決学習の充実）	「主体的な学び」に関するアンケートの肯定的意見の割合（％）	80	95.0	3			１学期末に行ったアンケートでの「主体的な学び」に関する内容において、「課題に対して予想を持つこと」や「振り返りの時に分かったこと、分からなかったことを考える」、「友達と話し合うことで自身の考えを深める」の項目が肯定的評価 80％を超えた。予想を持って取り組み、意見をすり合わせ、振り返るという一連の流れは意識していると言える。一方、「課題解決のための情報収集を自ら進んで」という項目では肯定的評価 60％となった。昨年度と同じ項目での課題が現れている。ICTの活用が進んでいる中、自分で学習する機会を設定させていくことで、改善できる余地があると考える。	実生活とのつながりを意識したパフォーマンス課題を取り入れた授業内容を考えていく。課題提示の場面で、必要性を感じられるような内容をなるべく取り入れる。問題をイメージしやすいような動画視聴もタブレット端末を使って行い、ICTの活用につなげていく。	教務
豊かな心の育成	規範意識や礼儀など豊かな心の育成	自己肯定感、自己有用感の向上を図る。	・全校創作エイサー等、集団を高める体験活動の充実（生徒会中心） ・地域貢献、ボランティア活動の推進 ・生徒会活動の充実	質問紙で「自分には良いところがある」と回答した生徒の割合（％）	85	93.6	3			７月に実施したアンケート調査では、全体で 79.6％、３年生 80％、２年生 88％、１年生 73％の結果だった。これは、新型コロナウイルス感染症対策の影響で創作エイサーや生徒会活動、地域ボランティア等の体験活動に十分取り組めなかったことが要因の一つである。また授業や学級活動で全員に光を当てる工夫が必要だと考える。	今年度も、生徒が主体となって創作エイサーに取り組んでいる。与えられたことをこなすだけではなく、生徒の創意工夫を取り入れる場面をつくり、主体的に行事に取り組み、達成感を得るように運営する。また１時間の授業の中で生徒が活躍する場面や成功体験を味わえる場面を仕組み、できたこと、頑張ったことを積極的に評価する。	生徒指導
		礼節と規範意識を醸成する。	・生徒指導規程の周知と徹底 ・「学校での５つの約束」の充実と徹底（生徒会中心）	学校での「５つの約束」が徹底できている生徒の割合（％）	90	88.8	3			５つの約束のそれぞれの回答割合は、「準備をして２分前には着席している」；65％、「常に服装を意識し、チェック 0 で生活している」；85％、「大きな声であいさつをし、４秒の礼を丁寧にしている」；88％、「授業に集中し、立腰の姿勢で受けている」；68％、「相手の目を見て、集中して話を聞いている」；94％である。	時間を守ることに対し、ルーズな場面がある。職員間で「まずは大人が時間を守る」ことを確認し、その上で生徒にも時間を守る大切さや時間を守る声掛けをする。挨拶は「立ち止まること」や「目を合わせることを」を引き続き重点的に指導し、４秒礼も粘り強く声掛けを行う。10 月後半から生徒会、委員会と挨拶運動を行う。	生徒指導
逞しい気力と体力の育成	夢の実現に向けて粘り強く挑戦する逞しい気力と体力の育成	基礎体力・運動能力の向上を図る。	・新体力テスト結果分析をもとに、生徒が自己の体力の課題について考え、積極的に体力を向上させていこうとする態度の育成（保健体育科） ・全校体力づくりの取組として、「全校体力づくり」と「全校エイサー」に取組む（生徒会） ・スマホ・ゲーム等の使用は、家庭でルールを決める。（１日２時間以内、stop9） ・ノーメディアデーの実施（中間試験前２日、期末試験前３日、生徒アンケートと保護者アンケートの実施）	新体力テストの結果で校内平均が、県平均・全国平均以上の割合（％）	70	64.2	2			本年度は、１年ぶりに新体力テストを実施した。８種目で測定を行い、１年男子で全国平均を上回った種目は 7 種目、２年男子で１種目、３年男子で 3 種目であった。１年女子で平均を上回った種目は 2 種目、２年女子は 4 種目、３年女子は 5 種目であった。	全校エイサーの取組の継続と部活動での体力づくりを推進し、生徒の体力向上を図る。 また、１１月より週 1 回部活動時間に 1、２年生を対象とした体力づくりを行う。	生徒指導
				ノーメディアデーで、家庭でＴＶ以外のメディアを使わない生徒の割合（％）	60	101.6	3			ノーメディアデーではテレビ以外のメディアの使用を控えている生徒の割合は、全体では 61％である。学年別では、１年生 80％、２年生 50％、３年生 53％という結果であった。	引き続き、学級懇談会や三者懇談で保護者・生徒へメディアとの適切な付き合い方について情報提供したり、自身のメディア使用の状況を振り返らせたりするなどしてノーメディアの取り組みを進める。	
信頼される学校づくり	保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりの推進	小中一貫教育の充実を図る。	・小中一貫教育のさらなる充実のために、管理職会議を月 1 回、推進委員会、各部会を学期 1 回(年 3 回)以上計画的に開催する。 ・小中合同の運動会、文化フェスティバル、公開研究会を開催し、保護者の理解と協力を得る。 ・「小中一貫教育だより」を年 5 回以上発行	「小学校と中学校は、協力して教育活動を進めている」と答える保護者の割合（％）	90	80.0	3			アンケート結果では、肯定的な評価の割合は 72％、通過率 80％で昨年度よりやや減少している。とりわけ 3 年は、やや半数の保護者が「ややあてはまらない」と回答をしている。感染防止のため、生徒にとっては 2 年続けての小学校との合同での行事（文化フェスティバル、公開研究会、スマイルあいさつ運動など）を中止した影響があると考え。教職員の小中学校間の交流については、夏には対面での生徒の学力や生活の実態交流ができ、授業研修会もオンラインという形で開催できた。	小中一貫教育の取組を継続し、年度初めの計画に沿って進めていく。また、学校の生徒実態や取組状況の連携を管理職、主任層を中心に定期的に行う。児童生徒の交流については、今からスマイル集会、リトルティーチャーを予定しているが、感染防止を十分する中で、できることから取り組む。	企画
		保護者や地域へ積極的に情報公開を行う。	・生徒の様子や活躍を、多面的に情報発信するために、各種通信(月 1 回以上発行)、ホームページ(週 1 回以上更新)、校内外の掲示等やマスコミを有効活用する。 ・学校の取組への理解と協力を得るために職員が保護者・地域住民と対話する機会を生かし、積極的に取組を伝えたり、願いを汲み取ったりする。	「学校は子供の状況や学校の取組を適切に伝えている」と答える保護者の割合（％）	90	86.7	3			肯定的な評価の割合は 78％で、通過率は 86.7％である。昨年度とは異なり、教育活動も工夫して実施できるようになり授業参観・学級懇談会、また運動会（スポーツフェスティバル）などで保護者に来校いただき、生徒の学習の様子を見ていただくことも増えた。学校だより等の発行、ホームページの更新等での発信が十分でなかった。地域の方とも、行事や「総合的な学習の時間」の授業に講師として招くなどの計画を進めている。	生徒の頑張りや学校の伝えたいことを学校だより、ホームページによって計画的に発信していく。また、保護者や地域の方とは、顔を合わす機会を生かして積極的に学校の様子を伝えていく。また、保護者や地域の方の願いや知を生かした「総合的な学習の時間」などの学びを通して生徒を育成する。	企画

*通過率＝達成値÷目標値×１００

*評価 ４：達成した（通過率 100 以上） ３：おおむね達成した（通過率 75～100） ２：あまり達成していない（50～75） １：達成していない（50 以下）